

***Lecanorchis japonica*** Bl., Mus. Bot. Lugd.-Bat. 2: 188 (1856).

var. ***suginoana*** Tuyama var. nov.

A typo differt pilis labellae ramosis. Alae columnae acuto-obtusae non obtusae.

Prov. Totomi: Sugi in oppido Haruno-cho (Tuyama, Jun. 8, 1980—Typus in TI), ibid. (Tuyama, Jun. 28, 1981).

Nom. Jap. Enshū-muyōran (Tuyama et Sugino, nov.)

This new variety was found by Mr. Takao Sugino on 27 th May, 1980 at the locality mentioned above in abundance under the deciduous forest at alt. 540 m, where *Quercus serrata* and *Carpinus laxiflora* were dominant trees. In the region far south of this locality in the same province, where evergreen *Castanopsis cuspidata* is dominating, typical *Lecanorchis japonica* is found not so rarely.

□中池敏之：新日本植物誌シダ篇 808 pp. 1982. 至文堂，東京。¥24,000. シダのおし葉標本の写真で構成された図鑑で，B 5 判の各ページに 1 種類ずつの写真（部分拡大や別の葉の小形写真を付加した場合もある）があり，下に和名，学名，簡単な解説などが入れている。日本全国のシダ，品種まで全部入れたと著者の言うように 720 余種類，それに雑種のおもなものとして 128 が収められている。シダは葉が平面的で生葉とおし葉の差が少なく，微妙な形の違いや切れ込みの工合は標本写真の方が描いた図よりもかえってよくわかる場合が多い。この意味から本書は成功していると思う（余談ながら書名から察すると出版社は姉妹編の種子植物を出す考えのようにみえるが，シダのようにはいかないかも知れないと思考する）。中級以上の研究者や愛好者なら十分使いこなせる便利な参考書である。次に本書の特色といえることは基準標本の写真が多く入れていることで，大小合わせて 1140 ほどの写真のうち約 600（主写真の一部を拡大したものや小形写真として入れているものを含めて）が基準標本の写真である。それらは著者が世界各地のハーバリウムで撮影してきたものだそうで，分類学専攻者にとって極めて有用な資料である。欲をいうならば標本ラベルを読める程度にはっきり出してほしかった。それが無理ならラベル上の学名と産地だけでもメモ欄に記載されていたら資料価値が倍増したにちがいない。

（伊藤 洋）